

# 中山間地域における農業後継者不足克服のために 所得拡大を中心に

## 【目次】

序章	第3章 岡山県総社市における桃生産の現状
第1章 中山間地域の農業について	第1節 全国における桃生産の動向
第1節 中山間地域の現状	第2節 全国における桃の出荷状況について
第2節 中山間地域の問題点	第3節 岡山県総社市の概要
第2章 農業後継者について	第4章 中山間地域における所得拡大の可能性
第1節 農業後継者の現状	第1節 小寺地区の桃農家の現状
第2節 農業後継者を確保 しやすくするための条件	第2節 経営計画を作成するために
	第3節 理想の経営計画
	終章

## 【目的】

日本の農業は農家人口・農家戸数の減少、高齢化、後継者不足などの多くの問題を抱えている。とりわけ中山間地域ではその傾向が強く、その中でも中国地方の中山間地域は深刻な状況であり、特に後継者不足は深刻な問題となっている。後継者不足の原因はいくつかあるが、「他産業並みの所得」が得られていないことが最も重要な問題だと考える。そこで本論文では、中国地方の中山間地域にある桃生産農家を対象にし、桃生産において年間1,000万円以上の農業所得が得られる農業経営の実現を考え、今後の中山間地域における担い手確保の可能性について考察する。

## 【方法】

関連文献・各統計資料を収集し、中山間地域農業・農業後継者の現状を明らかにした上で、農業改良普及所等の資料と農家調査を基に農業所得1,000万円を得る経営が可能であるか経営計画を作成して分析した。

## 【結果】

桃農家の現状は厳しい状況にあった。事例に挙げたA農家の経営収支では、1戸当たりの農業所得は320万円しかなく、所得率も36%と生産効率が高いとはいえない。このような状況では、意欲的に桃生産を継ぐ農業後継者は現れず、もし後継者が確保できたとしても経営が成り立たないと考えられる。

そこで、桃農家が農業所得1,000万円を得る経営計画を作成した。その結果、栽培面積260a、粗収入2,900万円、経営費1,900万円となり、農業所得1,020万円が得られ、目標農業所得1,000万円を確保することが可能であるとわかった。しかし、経営計画作成に当たり流動条件として考えた経営耕地面積・雇用労働力には、共に問題点があった。そこで、これらの問題点を解決するために「雇用労働力の確保は、農繁期の違う農家と共同で雇用労働力を雇う」「経営耕地面積を確保するために、行政による農業生産基盤整備の支援を行う」「外延的規模拡大だけでなく、高単価・高収量の品種の開発、大幅なコスト削減、農閑期の間作等による内包的規模拡大を取り入れる」という3条件が新たに必要だと考える。

以上の条件を実現することにより、1,000万円の目標農業所得を確保することができ、農業後継者の所得問題が解決できたと考えられる。その結果、農業後継者は増加していき、中山間地域農業の担い手は確保できると結論付ける。

## 【参考文献】

- 財団法人ふるさと情報センター編集『改訂版中山間地域対策ハンドブック』（大成出版社）  
吉田賢児著『モモ栽培の実際』（社団法人農山漁村文化協会）  
社団法人山梨県果樹園芸会『ももの栽培』  
小田切徳美著『日本農業の中山間地帯問題』（農林統計協会）  
酒井惇一・柳村俊介・伊藤房雄・斉藤和佐著『農業の継承と参入』（社団法人農山漁村文化協会）